
医業継続計画(MCP)の策定における病院事務課の役割

医療法人衆和会 長崎腎病院

○津久田健太 林田征俊 江嶋祐介 原健二 船越哲

【背景】

医療施設では、災害時に医療ニーズが急増した際に備え、医業継続計画(MCP)の策定が必要となる。事務課は特に診療材料の動向を把握し、部材不足による現場への支障を減らさなければならず、情報の共有が必要となる。

【目的】

COVID-19の流行に伴い、病院長と各部署の主任を中心としたMCP委員会を設置し、現場の状況把握や情報共有等を行いMCPの策定に努めた。MCPの一環として行われたクロストレーニングや材料確保等、事務職員の関わり方について報告する。

【方法】

材料確保困難となった際の経過、将来的な備蓄についての準備、クロストレーニングへの参加による部材の使用状況、需要の把握をおこなった。

【結果】

材料供給は日々状況が変化し、診療材料の通常使用が困難となった。マスクの使用量の削減、プラ手とポリ手の併用などの対策を行った。クロストレーニングの際には、有事の際の事務職部の動きを確認することができた。

【考察】

COVID-19の影響で材料確保困難な状況を経験した。診療材料の備蓄は1月分必要であり、備蓄の必要性和運用内容の検討は今後も必要となる。